



8.6 オンプレミス環境のセットアップ

この章では、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 またはそれ以前のバージョンおよび Cisco Unified Presence を使用した環境のセットアップ手順を示すタスクベースの情報を提供します。



(注) Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence のインストールと設定に伴う詳細なタスクに関する情報を記述することは、このマニュアルの範囲を超えています。この章の目的は、Cisco Jabber for Windows 用に環境をセットアップするために必要なタスクのワークフローを示すことにあります。詳細情報を確認し、それぞれの導入環境に特有のインストールおよび設定タスクを実行するには、環境内の各コンポーネントに関する適切なマニュアルを参照してください。

前提条件

この章内のタスクを開始する前に、次の作業を行う必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager をインストールおよび設定する。
- Cisco Unified Presence をインストールおよび設定する。



メモ Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence をインストールするときは、サーバ間の通信を有効にするために必要な詳細を指定します。この通信には、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unified Presence の間のアベイラビリティステータスの同期化を可能にするための SIP パブリッシュ トランクが含まれます。

- [セットアッププロセスの確認, 2 ページ](#)
- [基本サービスのアクティブ化および開始, 3 ページ](#)
- [環境へのディレクトリの追加, 3 ページ](#)
- [TFTP サーバの準備, 5 ページ](#)

- [インスタントメッセージおよびプレゼンスの設定, 5 ページ](#)
- [ユニファイドコミュニケーションの設定, 11 ページ](#)
- [ボイスメールの設定, 25 ページ](#)
- [Cisco WebEx Meeting Center との統合, 30 ページ](#)
- [Microsoft Office との統合の設定, 36 ページ](#)

セットアッププロセスの確認

このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6 またはそれ以前のバージョンを使用する環境をセットアップするプロセスの概要を示します。

手順

-
- ステップ 1** 基本サービスをアクティブ化して開始します。
基本サービスがアクティブであり、Cisco Unified Presence で実行中であることが必要です。これらの基本サービスは、Cisco Jabber for Windows が必要とする各種の機能を提供します。
- ステップ 2** 環境にディレクトリを追加します。
環境にディレクトリを追加すると、次のことが起こります。
- ディレクトリ サーバに存在するユーザ データが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力される。
 - 環境内でプロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる対象のユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供される。
- ステップ 3** TFTP サーバを準備します。
Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定を取得します。Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。
- ステップ 4** インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。
導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。チャットおよびアベイラビリティ ステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。
- ステップ 5** (任意) ユニファイドコミュニケーションを設定します。
- ステップ 6** (任意) ボイスメールを設定します。
- ステップ 7** (任意) Microsoft Office との統合を設定します。
-

基本サービスのアクティブ化および開始

基本サービスによってサーバ間の通信が可能になり、Cisco Jabber for Windows に機能が提供されます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence サービスアビリティ (Cisco Unified Presence Servicability)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [コントロールセンタの機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 3** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。
- ステップ 4** 次のサービスが開始され、アクティブ化されることを確認します。
- Cisco UP SIP Proxy
 - Cisco UP Sync Agent
 - Cisco UP XCP Authentication Service
 - Cisco UP XCP Connection Manager
 - Cisco UP Presence Engine
- ステップ 5** [ツール (Tools)] > [コントロールセンタの機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 6** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。
- ステップ 7** [Cisco UP XCP Router サービス (Cisco UP XCP Router Service)] が実行中であることを確認します。
-

次の作業

必要に応じて追加サービスをアクティブ化し、開始します。使用可能サービスを確認し、導入環境に追加サービスが必要であるかどうかを判断するには、適切な Cisco Unified Presence マニュアルを参照してください。

環境へのディレクトリの追加

環境にディレクトリを追加することで、ディレクトリ サーバに存在するユーザデータが Cisco Unified Communications Manager データベースに入力されます。このタスクを実行すると、プロファイルに追加できる、また機能をプロビジョニングできる環境内対象ユーザが Cisco Unified Communications Manager に提供されます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)] を選択します。
[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [LDAP システム情報 (LDAP System Information)] セクションを見つけます。
- ステップ 4** [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] を選択します。
- ステップ 5** 次のドロップダウンリストから、適切な値を選択します。
- LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)
 - ユーザ ID の LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)
- ステップ 6** [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。
- ステップ 7** [新規追加 (Add New)] を選択します。
[LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウで必要な詳細を指定します。
指定できる値と形式の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「LDAP Directory Configuration」を参照してください。
- ステップ 9** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 10** [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] を選択します。
- (注) 同期プロセスが完了するまでの時間は、ディレクトリに存在するユーザ数によって異なります。数千のユーザが存在する大規模なディレクトリを同期する場合は、ある程度処理に時間がかかることが予想されます。

ディレクトリ サーバからのユーザデータは、Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されます。Cisco Unified Communications Manager は、そのユーザデータを Cisco Unified Presence データベースに同期させます。

次の作業

ディレクトリ内のユーザが Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Presence で使用可能かどうかを確認します。

ディレクトリ内のユーザが、使用可能なユーザのリストで返された場合、ディレクトリは正常に環境に追加されています。

関連トピック

[「Configuring Cisco Unified Communication Manager Directory Integration」](#)

[「LDAP Directory Configuration」](#)

[「Cisco Unified Presence: Integrating the LDAP Directory」](#)

TFTP サーバの準備

Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから設定およびデバイス設定を取得します。Cisco Jabber for Windows がこれらの設定を取得できるように、Cisco Unified Presence で TFTP サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [設定 (Settings)] を選択します。
(注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定 (Settings)] となります。
[Cisco Jabber の設定 (Cisco Jabber Settings)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** Cisco Unified Presence のバージョンにより、次のいずれかのセクションで TFTP サーバを指定するためのフィールドを見つけます。
- Cisco Jabber セキュリティ設定 (Cisco Jabber Security Settings)
 - CUPC グローバル設定 (CUPC Global Settings)
- ステップ 4** 次のフィールドで、プライマリおよびバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
- プライマリ TFTP サーバ (Primary TFTP Server)
 - バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)
 - バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)
- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。
-

インスタントメッセージおよびプレゼンスの設定

インスタントメッセージおよびプレゼンス機能は、Cisco Jabber for Windows 対応の基本機能です。ユーザは、インスタントメッセージを送受信し、アベイラビリティステータスを公開および表示することができます。

導入を開始するには、まず、インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定します。チャットおよびアベイラビリティステータスの機能を正常に設定した後は、その他のサービスを追加し、音声およびビデオまたはボイスメールなどの追加機能を設定することで、導入を拡張できます。

メッセージ設定の有効化

Cisco Unified Presence でインスタントメッセージを有効にして、インスタントメッセージの設定を指定するには、このタスクの手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)] > [設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 3** 次のオプションを選択します。
- インスタントメッセージを有効にする (Enable instant messaging)
 - クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録を可能にする (Allow clients to log instant message history)
- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-

関連トピック

[「How to Configure the Instant Messaging Settings on Cisco Unified Presence」](#)

機能割り当ての指定

Cisco Jabber for Windows ユーザにインスタントメッセージおよびプレゼンス機能を提供するには、このタスクの手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [機能割り当て (Capabilities Assignment)] を選択します。
[機能割り当ての検索/一覧表示 (Find and List Capabilities Assignments)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [機能割り当ての検索場所 (Find Capabilities Assignment where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
- ステップ 4** 対象のユーザをリストから選択します。

[機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [機能割り当ての設定 (Capabilities Assignment Configuration)] セクションで次の両方を選択します。

- CUP を有効にする (Enable CUP)
- CUPC を有効にする (Enable CUPC)

ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

プレゼンス登録要求に関するプロンプトの設定

組織内の連絡先からのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを有効または無効にすることができます。

Cisco Jabber for Windows はユーザーに対して常に、組織外部の連絡先からのプレゼンス登録要求を許可するように求めるプロンプトを表示します。

ユーザーは、次のように Cisco Jabber for Windows でプライバシー設定を指定します。

組織内部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織内部の連絡先を許可またはブロックすることを選択できます。

- ユーザがプレゼンス登録要求の許可を選択した場合、かつ
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)]を選択した場合、Cisco Jabber for Windows はユーザにプロンプトを表示せずにすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)]を選択しなかった場合、Cisco Jabber for Windows はユーザに対してすべてのプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先だけがそれぞれのアベイラビリティステータスを確認できます。つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティステータスを確認できます。



(注) 組織内の連絡先を検索する際に、ユーザは組織内のすべてのユーザの一時的なアベイラビリティステータスを確認できます。ただし、ユーザ A がユーザ B をブロックすると、ユーザ B はユーザ A の一時的なアベイラビリティステータスを検索リスト内で確認できません。

組織外部

Cisco Jabber for Windows ユーザは、組織外部の連絡先に対して次のオプションを選択できます。

- Cisco Jabber for Windows が、外部の連絡先に対して各プレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示するようにする。
- 既存の連絡先だけにアベイラビリティステータスが表示されるように、すべての連絡先をブロックする。つまり、ユーザのプレゼンスにすでに登録されている連絡先だけが、それぞれのアベイラビリティステータスを確認できます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きません。
- ステップ 2** [プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] を選択します。

[プレゼンスの設定 (Presence Settings)] ウィンドウが開きます。

- ステップ 3** [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)] を選択してプロンプトを無効にし、組織内のすべてのプレゼンス登録要求を自動的に受け入れます。このオプションには、次の値があります。

オン

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求に関するプロンプトを表示しません。Cisco Jabber for Windows は、ユーザにプロンプトを表示せずに自動的にすべてのプレゼンス登録要求を受け入れます。

オフ

Cisco Jabber for Windows は、ユーザに対してプレゼンス登録要求の許可を求めるプロンプトを表示します。この設定により、ユーザは、組織内の他のユーザに対してアベイラビリティステータスの表示を許可するように要求されます。

- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-

連絡先リストの一括インポート

一括割り当てツール (BAT) を使用して、ユーザ連絡先リストを Cisco Unified Presence にインポートできます。

連絡先リストの一括インポートの手順については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence Release 8.6*』の「*Bulk Import of User Contact Lists*」を参照してください。

関連トピック

[「Bulk Import of User Contact Lists」](#)

予定表イベントに対する自動アベイラビリティ ステータスの有効化

予定表イベントに対するプレゼンス ステータスの自動更新を有効にするには、Cisco Jabber for Windows ユーザが個々に [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスで初期設定を有効にする必要があります。

**重要**

- この初期設定はデフォルトでは無効になっています。
- このリリースでは、各 Cisco Jabber for Windows ユーザが導入後、個別に初期設定を有効にする必要があります。管理者が、複数のユーザに対して一括でこの初期設定を有効にすることはできません。

サポートされているブラウザのリストを含め、[Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの詳細については、適切な Cisco Unified Communications IM and Presence のマニュアルを参照してください。

このトピックでは、Cisco Jabber for Windows ユーザが、予定表イベントに対するプレゼンスステータスの自動更新を有効にするために、導入後に実行する必要がある作業について説明します。

手順

- ステップ 1** Cisco Jabber for Windows ユーザに提供する必要がある情報を収集するには、次の手順を実行します。
- [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの URL を決定します。
この URL の形式は、`https://server_name:port_number/cupuser/showHome.do` となります。
 - 適切な Cisco Jabber for Windows ユーザに [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスの URL とクレデンシヤルを提供します。
- ステップ 2** Cisco Jabber for Windows ユーザに次の手順を実行するよう、指示します。
- [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスにログインします。
 - [ユーザ オプション (User Options)] > [初期設定 (Preferences)] を選択します。
[初期設定 (Preferences)] ページが開きます。
 - [初期設定 (Preferences)] ページの [予定表の設定 (Calendar Settings)] セクションに移動します。
 - [自分のプレゼンスステータスに予定表情報を含める (Include Calendar information in my Presence Status)] フィールドのドロップダウンメニューから [オン (On)] を選択します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
 - [Cisco Unified Presence ユーザ オプション (Cisco Unified Presence User Options)] インターフェイスからログアウトし、インターフェイスを閉じます。

これで、アベイラビリティステータスが予定表に統合されます。予定表にミーティングがスケジュールされている場合、そのミーティングが開始されると、Cisco Jabber for Windows 内のステータスが自動的に [ミーティング中 (In a meeting)] に設定されます。

関連トピック

[『User Guide for Cisco Unified Presence』](#)

ユニファイドコミュニケーションの設定

ユニファイドコミュニケーションを設定すると、Cisco Jabber for Windows の音声およびビデオ機能が有効になります。

はじめる前に

- 付加ライセンスの情報を含め、Cisco Unified Communications Manager ライセンス要件を確認します。
- Cisco Unified Communications Manager に関するデバイス名の設定ガイドラインを確認します。

ソフトフォンデバイスの作成

ソフトウェアフォンは、コンピュータを介して音声およびビデオを送受信するための機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

SIP プロファイルの作成

ソフトウェアフォンデバイスを作成するには、まず、ビデオデスク共有を有効にできるように SIP プロファイルを作成します。Client Service Framework (CSF) デバイスまたはソフトウェアフォンデバイスには、SIP プロファイルが必要です。ただし、デフォルトの SIP プロファイルを編集したり、設定したりすることはできません。この理由から、新規の SIP プロファイルを作成する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
[SIP プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3** 次のいずれかを実行し、新規の SIP プロファイルを作成します。
 - デフォルトの SIP プロファイルを見つけて、編集可能なコピーを作成します。
 - [新規追加 (Add New)] を選択し、新規の SIP プロファイルを作成します。
-

関連トピック

[「8.6.x: SIP Profile Configuration」](#)

[「9.0.x: SIP profile setup」](#)

ビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager は、Binary Floor Control Protocol (BFCP) を介してビデオ デスクトップ共有機能を提供します。Cisco Jabber for Windows ユーザにビデオ デスクトップ共有機能を提供するには、適切な CSF デバイスで BFCP を有効にする必要があります。



(注) Cisco Jabber for Windows は、ソフトウェア フォン デバイスでのみビデオ デスクトップ共有をサポートします。デスクフォンデバイスでは、Cisco Jabber for Windows とのビデオ デスクトップ共有を有効にできません。



重要 ハイブリッドクラウドベース導入では、Cisco WebEx と Cisco Unified Communications Manager の両方ともデスクトップ共有機能を提供します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザがインスタント メッセージセッション中にデスクトップ共有セッションを開始した場合は、Cisco WebEx によってデスクトップ共有機能が提供されます。
- Cisco Jabber for Windows ユーザが音声またはビデオ会話中にデスクトップ共有セッションを開始すると、Cisco Unified Communications Manager によってデスクトップ共有機能が提供されます。

関連トピック

[「Presentation Sharing with the Binary Floor Control Protocol」](#)

バージョン 8.6.1 でのビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 またはそれ以前のバージョンでビデオ デスクトップ共有を設定するには、SIP プロファイルで BFCP を有効にします。



(注) ビデオ デスクトップ共有の設定を移行することはできません。Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 でビデオ デスクトップ共有を設定し、Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 にアップグレードした場合は、バージョン 8.6.2 でビデオ デスクトップ共有を設定する必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** 次の手順に従って、SIP プロファイルでビデオ デスクトップ共有を有効にします。

- 個々のプロファイルについては、次の手順を実行します。
 - 1 [デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
 - 2 SIP プロファイルを選択します。
 - 3 [トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration)] セクションでは、[BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow Presentation Sharing Using BFCP)] を選択します。
 - 4 [保存 (Save)] を選択します。

- 複数のプロファイルについては、次の手順を実行します。
 - 1 [一括管理 (Bulk Administration)]>[電話 (Phones)]>[電話のエクスポート (Export Phones)]>[すべての詳細 (All Details)] を選択します。
 - 2 [一括管理 (Bulk Administration)]>[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択し、エクスポートされた CSV ファイルをダウンロードします。
 - 3 任意のエディタで CSV ファイルを開きます。
 - 4 BFCP を使用するプレゼンテーション共有を許可 (Allow presentation sharing using BFCP) という列を CSV ファイルに挿入します。
 - 5 必要なすべてのデバイスに対する列の値を Y に設定します。
 - 6 CSV ファイルを保存します。
 - 7 [一括管理 (Bulk Administration)]>[電話 (Phones)]>[電話の挿入 (Insert Phones)] を選択します。
 - 8 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] オプションを選択します。
 - 9 CSV ファイルをインポートします。
 - 10 [今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - 11 [送信 (Submit)] を選択します。

バージョン 8.6.2 でのビデオ デスクトップ共有の設定

Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以降でビデオ デスクトップ共有を設定するには、SIP プロファイルで BFCP を有効にする COP ファイルを適用します。COP ファイルは `cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn` であり、Cisco Jabber for Windows 管理パッケージの一部として使用できます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn をアップロードして適用します。
- ステップ 3** 次のようにサーバを再起動します。
- [Cisco Unified OS の管理 (Cisco Unified OS Administration)] インターフェイスを開きます。
 - [設定 (Settings)] > [バージョン (Version)] を選択します。
 - [リスタート (Restart)] を選択します。
 - プレゼンテーションサーバから始まる、クラスタ内のノードごとに前述の手順を繰り返します。
- ステップ 4** 次のように SIP プロファイルでビデオ デスクトップ共有を有効にします。
- 個々のプロファイルの場合、次の手順を実行します。
 - [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] を選択します。
 - SIP プロファイルを選択します。
 - [トランク固有の設定 (Trunk Specific Configuration)] セクションで [BFCP を使用したプレゼンテーション共有を許可する (Allow Presentation Sharing Using BFCP)] を選択します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
 - 複数のプロファイルの場合、次の手順を実行します。
 - [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のエクスポート (Export Phones)] > [すべての詳細 (All Details)] を選択します。
 - [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択し、エクスポートした CSV ファイルをダウンロードします。
 - 任意のエディタを使用して CSV ファイルを開きます。
 - Allow presentation sharing using BFCP というカラムを CSV ファイルに挿入します。
 - すべての必須デバイスに対して、カラムの値を Y に設定します。
 - CSV ファイルを保存します。
 - [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert Phones)] を選択します。
 - [既存の設定を上書きする (Override the existing configuration)] オプションを選択します。
 - CSV ファイルをインポートします。
 - [すぐに実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - [送信 (Submit)] を選択します。
-

CSF デバイスの作成

CSF デバイスは、ソフトウェア フォン機能を Cisco Jabber for Windows に提供します。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。
 - ステップ 4 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから [Cisco Unified Client Services Framework] を選択し、[次へ (Next)] を選択します。
 - ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで適切な設定を指定します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。
 - ステップ 6 [SIP プロファイル (SIP Profile)] ドロップダウンリストから、ビデオデスクトップ共有を有効にした SIP プロファイルを選択します。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] を選択します。
デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] セクションが使用可能になります。
-

次の作業

デバイスに電話番号を追加し、設定を適用します。

関連トピック

[「Phone Configuration Settings」](#)

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニュー オプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。このメニューオプションでは、電話機モデルまたはCTIルートポイントに適用する設定のみが表示されます。電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] セクションを見つけます。
- ステップ 2** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] を選択します。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに電話番号を指定します。
- ステップ 4** 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。
- ステップ 5** 次の手順に従って、エンドユーザと電話番号を関連付けます。
- [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)] セクションを見つけます。
 - [エンドユーザの関連付け (Associate End Users)] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが開きます。
 - [ユーザの検索場所 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
 - 対象のユーザをリストから選択します。
 - [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
選択したユーザがボイスメールプロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。
[設定の適用 (Apply Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [設定の適用 (Apply Configuration)] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。
-

関連トピック

[「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」](#)

[「9.0.x: About directory number setup」](#)

デスクフォンのデバイスの作成

Cisco Jabber for Windows ユーザは、コンピュータを使用してデスクフォンを制御し、音声コールを発信できます。このトピックでは、Cisco Unified Communications Manager でデスクフォンのデバイスを作成する方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

ステップ 4 [電話タイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから適切なデバイスを選択し、[次へ (Next)] を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報 (Device Information)] セクションで次の手順を実行します。

a) [説明 (Description)] フィールドにわかりやすい説明を入力します。

Cisco Jabber for Windows によってデバイスの説明が表示されます。Cisco Jabber for Windows ユーザが同一モデルのデバイスを複数持っている場合、この説明が複数のデバイス間の違いを見分けるのに役立ちます。

b) [CTI からのデバイスの制御を許可する (Allow Control of Device from CTI)] を選択します。

[CTI からのデバイスの制御を許可する (Allow Control of Device from CTI)] を選択しない場合、Cisco Jabber for Windows ユーザはデスクフォンを制御できません。

ステップ 6 デスクフォンのビデオ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

a) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションを見つけます。

b) [ビデオ機能 (Video Capabilities)] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] を選択します。

デスクフォンのビデオの詳細については、「デスクフォンビデオの設定」を参照してください。

ステップ 7 必要に応じて、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでその他すべての設定を指定します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでの設定の詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

ステップ 8 [保存 (Save)] を選択します。

デバイスが正常に追加されたかどうかを通知するメッセージが表示されます。[アソシエーション情報 (Association Information)] セクションが [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで利用可能になります。

次の作業

ディレクトリ番号をデバイスに追加し、設定を適用します。

関連トピック

[「Phone Configuration Settings」](#)

デスクフォンビデオの設定

デスクフォンのビデオ機能を使用すると、ユーザは Cisco Jabber for Windows を通じてコンピュータのデスクフォンデバイスに送られたビデオを受信することができます。

デスクフォンビデオのセットアップ

デスクフォンビデオをセットアップするには、次の手順を実行する必要があります。

- 1 デスクフォンデバイスのコンピュータポートに、コンピュータを物理的に接続します。
Cisco Jabber for Windows がデバイスへの接続を確立できるよう、コンピュータポートを通じてデスクフォンデバイスとコンピュータを物理的に接続する必要があります。デスクフォンデバイスへのワイヤレス接続では、デスクフォンのビデオ機能は使用できません。
- 2 Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、デスクフォンデバイスのビデオを有効にします。
方法については、「デスクフォンのデバイスの作成」のトピックを参照してください。
- 3 コンピュータに Cisco Medianet をインストールします。
Cisco Medianet によって、Cisco Jabber for Windows が次の操作を実行できるドライバが提供されます。
 - デスクフォンデバイスを検出する。
 - CAST プロトコルを使用し、デスクフォンへの接続を確立して保持する。

デスクフォンビデオに関する考慮事項

デスクフォンビデオ機能を Cisco Jabber for Windows ユーザに対してプロビジョニングする前に、次の考慮事項と制限事項を確認してください。

- Cisco Unified IP Phone 9971 など、ビデオカメラが接続されたデバイスでは、デスクフォンビデオ機能は使用できません。
- CTI に対応していないデバイスでは、デスクフォンビデオ機能は使用できません。
- BFCP プロトコルを使用したビデオデスクトップ共有は、デスクフォンビデオでは使用できません。
- SCCP を使用するエンドポイントで、ビデオだけを受信することはできません。SCCP エンドポイントは、ビデオを送受信する必要があります。SCCP がビデオを送信しないインスタンスでは、オーディオのみのコールになります。

デバイスへの電話番号の追加

Cisco Unified Communications Manager で、電話番号をデバイスに追加する必要があります。このトピックでは、デバイスを作成した後で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] メニューオプションを使用して電話番号を追加する手順を示します。このメニューオプションでは、電話機モデルまたはCTIルートポイントに適用する設定のみが表示されます。電話番号を設定するさまざまなオプションの詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] セクションを見つけます。
- ステップ 2** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] を選択します。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに電話番号を指定します。
- ステップ 4** 必要に応じて、その他の必要な設定をすべて指定します。
- ステップ 5** 次の手順に従って、エンドユーザと電話番号を関連付けます。
- [回線に関連付けられているユーザ (Users Associated with Line)] セクションを見つけます。
 - [エンドユーザの関連付け (Associate End Users)] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが開きます。
 - [ユーザの検索場所 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
 - 対象のユーザをリストから選択します。
 - [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
選択したユーザがボイスメールプロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。
[設定の適用 (Apply Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 8** [設定の適用 (Apply Configuration)] ウィンドウのプロンプトに従って、設定を適用します。
-

関連トピック

[「8.6.x: Directory Number Configuration Settings」](#)

[「9.0.x: About directory number setup」](#)

ビデオ レート アダプテーションの有効化

Cisco Jabber for Windows では、ビデオ レート アダプテーションを使用して、最適なビデオ品質をネゴシエートします。ビデオ レート アダプテーションは、ネットワークの状況に基づいてビデオ品質を動的に向上または低下させます。

ビデオ レート アダプテーションを使用するには、Cisco Unified Communications Manager で Real-Time Transport Control Protocol (RTCP) を有効にする必要があります。



(注) ソフトウェア フォン デバイスでは、デフォルトで RTCP が有効になります。ただし、デスクフォンデバイスでは RTCP を有効にする必要があります。

共通の電話プロファイルでの RTCP の有効化

共通の電話プロファイルで RTCP を有効にして、そのプロファイルを使用するすべてのデバイスでビデオ レート アダプテーションを有効にすることができます。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] を選択します。
[共通の電話プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 [共通の電話プロファイルの検索場所 (Find Common Phone Profile where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してプロファイルのリストを取得します。
 - ステップ 4 対象のプロファイルをリストから選択します。
[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 5 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションを見つけます。
 - ステップ 6 [RTCP] ドロップダウン リストから [有効 (Enabled)] を選択します。
 - ステップ 7 [保存 (Save)] を選択します。
-

関連トピック

[「8.6.x: Common Phone Profile Configuration」](#)

[「9.0.x: Common phone profile setup」](#)

デバイス設定での RTCP の有効化

共通の電話プロファイルの代わりに、特定のデバイス設定で RTCP を有効にすることができます。特定のデバイス設定によって、共通の電話プロファイルで指定した設定は無効になります。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 [電話の検索場所 (Find Phone where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択して電話機のリストを取得します。
 - ステップ 4 対象の電話機をリストから選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションを見つけます。

ステップ 6 [RTCP] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] を選択します。

ステップ 7 [保存 (Save)] を選択します。

関連トピック

[「8.6.x: Phone Configuration Settings」](#)

[「9.0.x: Phone setup」](#)

CTI ゲートウェイのセットアップ

Cisco Jabber for Windows には、Cisco Unified Communications Manager と通信し、デスクフォン制御などの特定の機能を実行するために CTI ゲートウェイが必要です。

CTI ゲートウェイ サーバの追加

CTI ゲートウェイを設定するには、まず、Cisco Unified Presence で CTI ゲートウェイ サーバを追加します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [CTI ゲートウェイ サーバ (CTI Gateway Server)] を選択します。

(注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ サーバ (CTI Gateway Server)] となります。

[CTI ゲートウェイ サーバの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Servers)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。
[CTI ゲートウェイ サーバの設定 (CTI Gateway Server Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [CTI ゲートウェイ サーバの設定 (CTI Gateway Server Configuration)] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。

ステップ 5 [保存 (Save)] を選択します。

関連トピック

[「Configuring CTI Gateway Server Names and Addresses」](#)

CTI ゲートウェイ プロファイルの作成

CTI ゲートウェイ サーバを追加した後は、CTI ゲートウェイ プロファイルを作成し、そのサーバをプロファイルに追加する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile)] を選択します。
- (注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイ プロファイル (CTI Gateway Profile)] となります。
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 (CTI Gateway Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 (CTI Gateway Profile Configuration)] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。
- ステップ 4** [プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] を選択し、プロファイルに適切なユーザを追加します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。
-

関連トピック

[「Creating CTI Gateway Profiles」](#)

ユーザの割り当ての設定

Cisco Unified Communications Manager 上のソフトウェア フォン デバイスおよびデスクフォン デバイスにユーザを関連付ける必要があります。ユーザをデバイスに関連付けると、ユーザはそれらのデバイスにアクセスし、音声およびビデオ コールを送受信できるようになります。

ユーザをデバイスに関連付けるほか、ユーザを適切なユーザ グループに追加することも必要です。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [ユーザの検索場所 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。

ステップ 4 対象のユーザをリストから選択します。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [デバイス情報 (Device Information)] セクションを見つけます。

ステップ 6 [デバイスの割り当て (Device Association)] を選択します。
[ユーザ デバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが開きます。

ステップ 7 ユーザを割り当てるデバイスを選択します。

ステップ 8 [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] を選択します。

ステップ 9 [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択し、[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウに戻ります。

ステップ 10 リストから、同じユーザを見つけて選択します。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 11 [権限情報 (Permissions Information)] セクションを見つけます。

ステップ 12 [ユーザ グループに追加 (Add to User Group)] を選択します。
[ユーザ グループの検索/一覧表示 (Find and List User Groups)] ダイアログ ボックスが開きます。

ステップ 13 ユーザを割り当てるグループを選択します。
少なくとも、次のグループにユーザを割り当てる必要があります。

- Standard CCM End Users
- Standard CTI Enabled

特定の電話機モデルには、次のような追加グループが必要です。

- Cisco Unified IP Phone 9900 または 8900 シリーズ。[標準 CTI による接続時の転送および会議をサポートする電話の制御 (Standard CTI Allow Control of Phones supporting Connected Xfer and conf)] を選択します。
- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ。[標準 CTI によるロールオーバー モードをサポートする電話の制御 (Standard CTI Allow Control of Phones supporting Rollover Mode)] を選択します。

ステップ 14 [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
[ユーザ グループの検索/一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが閉じられます。

ステップ 15 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [保存 (Save)] を選択します。

デバイスのリセット

ソフトウェアフォンとデスクフォンを追加し、それらのデバイスにユーザを関連付けた後は、デバイスをリセットする必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 [電話の検索場所 (Find Phone where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してデバイスのリストを取得します。
 - ステップ 4 対象のデバイスをリストから選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 5 [割り当て情報 (Association Information)] セクションを見つけます。
 - ステップ 6 適切な電話番号の設定を選択します。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 7 [リセット (Reset)] を選択します。
[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスが開きます。
 - ステップ 8 [リセット (Reset)] を選択します。
 - ステップ 9 [閉じる (Close)] を選択して、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスを閉じます。
-

CCMCIP プロファイルの作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager からデバイス設定を取得するために CCMCIP プロファイルを必要とします。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [CCMCIP プロファイル (CCMCIP Profile)] を選択します。
(注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CCMCIP プロファイル (CCMCIP Profile)] となります。

[CCMCIP プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List CCMCIP Profiles)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[CCMCIP プロファイルの設定 (CCMCIP Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のように、CCMCIP プロファイルの設定の詳細を指定します。

- a) [名前 (Name)] フィールドで、プロファイルの名前を指定します。
- b) [プライマリ CCMCIP ホスト (Primary CCMCIP Host)] フィールドで、プライマリ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
- c) [バックアップ CCMCIP ホスト (Backup CCMCIP Host)] フィールドで、バックアップ Cisco Unified Communications Manager インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
- d) [サーバ証明書の確認 (Server Certificate Verification)] は、デフォルト値のままにします。

ステップ 5 次の手順に従って、CCMCIP プロファイルにユーザを追加します。

- a) [プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが開きます。
- b) [ユーザの検索場所 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
- c) 対象のユーザをリストから選択します。
- d) [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
選択したユーザが CCMCIP プロファイルに追加されます。

ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

関連トピック

[「Configuring CCMCIP Profiles」](#)

ボイスメールの設定

ボイスメールを設定すると、Cisco Jabber for Windows ユーザがボイスメールメッセージを取得し、着信音声コールをボイスメールサービスにリダイレクトできるようになります。ボイスメールの設定タスクの一環として、Cisco Jabber for Windows で表示によるボイスメールを有効にするようにメールストアを設定することもできます。

Cisco Unity Connection の設定

このタスクは、Cisco Jabber for Windows を使用した Cisco Unity Connection にボイスメールを設定するために実行する必要があるタスクの概要を示します。それぞれの導入要件に固有の設定タスクの詳細については、適切な Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection で適切なユーザ プロファイルを作成します。
- ステップ 2** ユーザに IMAP アクセス権を与えます。
- a) Cisco Unity Connection 管理インターフェイスを開きます。
 - b) [サービス クラス (Class of Service)] を選択します。
[サービス クラスの編集 (Edit Class of Service)] ウィンドウが開きます。
 - c) [ライセンス済み機能 (Licensed Features)] セクションを見つけます。
 - d) [IMAP クライアントやシングル インボックスを使用したボイスメールへのアクセスをユーザに許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client and/or Single Inbox)] を選択します。
 - e) [メッセージ本文へのアクセスを IMAP ユーザに許可する (Allow IMAP Users to Access Message Bodies)] を選択します。
 - f) [保存 (Save)] を選択します。
-

関連トピック

[「Edit Class of Service」](#)

ボイスメール サーバの追加

Cisco Unified Presence でボイスメール サーバを追加するには、次のタスクの手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server)] を選択します。
- (注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール サーバ (Voicemail Server)] となります。
- [ボイスメールサーバの検索と一覧表示 (Find and List Voicemail Servers)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New)] を選択します。

[ボイスメール サーバの設定 (Voicemail Server Configuration)] ウィンドウが開きます。

- ステップ 4 [サーバタイプ (Server Type)] ドロップダウン リストから [Unity Connection] を選択します。
- ステップ 5 [ボイスメール サーバの設定 (Voicemail Server Configuration)] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。

関連トピック

[「Configuring Voicemail Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」](#)

メールストアの作成

Cisco Unified Presence でメールストアを作成するには、このタスクの手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [メールストア (Mailstore)] を選択します。
(注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [メールストア (Mailstore)] となります。
[メールストア サーバの検索と一覧表示 (Find and List Mailstore Servers)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。
[メールストアの設定 (Mailstore Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4 [メールストアの設定 (Mailstore Configuration)] ウィンドウで必要な詳細を指定します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] を選択します。

関連トピック

[「Configuring Mailstore Server Names and Addresses on Cisco Unified Presence」](#)

ボイスメール プロファイルの作成

ボイスメール サーバを追加した後は、ボイスメール プロファイルを作成し、そのサーバをプロファイルに追加する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きません。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)] を選択します。
- (注) Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [ボイスメール プロファイル (Voicemail Profile)] となります。
- [ボイスメール プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voicemail Profiles)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New)] を選択します。
- [ボイスメール プロファイルの設定 (Voicemail Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4** [ボイスメール プロファイルの設定 (Voicemail Profile Configuration)] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。
- ステップ 5** 次の手順に従って、ボイスメール プロファイルにユーザを追加します。
- [プロフィールにユーザを追加 (Add Users to Profile)] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが開きます。
 - [ユーザの検索場所 (Find User where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
 - 対象のユーザをリストから選択します。
 - [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
選択したユーザがボイスメール プロファイルに追加されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
-

関連トピック

[「Creating Voicemail Profiles on Cisco Unified Presence」](#)

取得およびリダイレクションの設定

取得およびリダイレクションを設定すると、Cisco Jabber for Windows がクライアントインターフェイスからボイスメールメッセージにアクセスし、着信音声コールをボイスメールサービスにリダイレクトできるようになります。Cisco Unified Communications Manager で、ボイスメールの取得およびリダイレクションを設定します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** ボイスメールパイロットを設定します。
- [拡張機能 (Advanced Features)]>[ボイス メール (Voice Mail)]>[ボイス メールパイロット (Voice Mail Pilot)] を選択します。
[ボイス メールパイロットの検索/一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)] ウィンドウが開きます。
 - [新規追加 (Add New)] を選択します。
[ボイス メールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - [ボイス メールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウで、必要な詳細を指定します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 3** ボイスメールパイロットをボイスメールプロファイルに追加します。
- [拡張機能 (Advanced Features)]>[ボイス メール (Voice Mail)]>[ボイス メールプロファイル (Voice Mail Profile)] を選択します。
[ボイス メール メールプロファイルの検索/一覧表示 (Find and List Voice Mail Mail Profiles)] ウィンドウが開きます。
 - [ボイスメールプロファイル名によるボイスメールプロファイルの検索 (Find Voice Mail Profile where Voice Mail Profile Name)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してプロファイルのリストを取得します。
 - 対象のプロファイルをリストから選択します。
[ボイス メールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - [ボイス メールパイロット (Voice Mail Pilot)] ドロップダウン リストからボイスメールパイロットを選択します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 4** 電話番号の設定でボイスメールプロファイルを指定します。
- [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索/一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが開きます。
 - [電話の検索場所 (Find Phone where)] フィールドで適切なフィルタを指定し、[検索 (Find)] を選択してデバイスのリストを取得します。
 - 対象のデバイスをリストから選択します。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - [割り当て情報 (Association Information)] セクションを見つけます。
 - 適切なデバイス番号を選択します。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。
 - [電話番号の設定 (Directory Number Settings)] セクションを見つけます。

- g) [ボイス メール プロファイル (Voice Mail Profile)] ドロップダウン リストからボイス メール プロファイルを選択します。
- h) [保存 (Save)] を選択します。

[「8.6.x: Cisco Voice-Mail Pilot Configuration」](#)

[「8.6.x: Voice-Mail Profile Configuration」](#)

[「9.0.x: Cisco voice-mail pilot setup」](#)

[「9.0.x: Voice-mail profile setup」](#)

Cisco WebEx Meeting Center との統合

Cisco WebEx Meeting Center は、Cisco Jabber for Windows にミーティングおよび会議サービスを提供します。

設定可能な Cisco WebEx Meeting Center 導入のタイプを確認してください。認証の設定方法を学習し、Cisco Jabber for Windows と Cisco WebEx Meeting Center 間の通信を有効にしてください。

Cisco WebEx Meeting Center との統合

このリリースでは、Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入に、次の 2 種類の Cisco WebEx Meeting Center 統合があります。

- クラウドベース 統合
- ハイブリッド クラウドベース 統合

クラウドベース統合

クラウドベース統合は、Cisco WebEx Meeting Center が次のサービスを Cisco Jabber for Windows に提供する環境を指します。

- 参加者チャットや参加者リストなどのデータ。
- 音声およびビデオ機能。

ハイブリッドクラウドベース統合

ハイブリッドクラウドベース統合は、次の環境を指します。

- Cisco WebEx Meeting Center が参加者チャットや参加者リストなどのデータを提供する。
- 会議ブリッジが音声およびビデオ機能を提供する。

Cisco WebEx Meeting Center による認証

Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center による次のタイプの認証をサポートしています。

直接認証

Cisco Jabber for Windows は、ユーザのクレデンシャルを Cisco WebEx Meeting Center に直接渡すことができます。

直接認証を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Cisco WebEx 管理ツール を使用して Cisco WebEx Meeting Center のユーザ アカウントを作成します。

直接認証シナリオでは、Cisco WebEx Meeting Center が、ユーザのクレデンシャルを検証する必要があります。ユーザ アカウントには、Cisco Jabber for Windows が認証を試みたときに Cisco WebEx Meeting Center で検証できるよう、クレデンシャルが保持されます。

- 2 Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Overview of Loosely Coupled Integration*」を参照してください。

アイデンティティ プロバイダーによる認証

Cisco Jabber for Windows は、Cisco WebEx Meeting Center からアイデンティティ プロバイダーに認証をリダイレクトできます。

アイデンティティ プロバイダーによる認証を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 必要に応じてアイデンティティ プロバイダーをセットアップします。

Cisco Jabber for Windows ユーザが Cisco WebEx Meeting Center による認証を試みると、Cisco Jabber for Windows はその認証をアイデンティティ プロバイダーにリダイレクトします。アイデンティティ プロバイダーはクレデンシャルを検証し、認証トークンを Cisco Jabber for Windows に返します。Cisco Jabber for Windows はそのトークンを Cisco WebEx Meeting Center に渡して、認証プロセスを完了します。

- 2 Cisco WebEx Meeting Center ユーザのクレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供します。

詳細については、*Cisco WebEx Meeting Center* クレデンシャルの提供を参照してください。

Cisco WebEx メッセージャー サービスを使用したユーザ アイデンティティの管理の詳細については、Cisco WebEx マニュアルの「*Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications*」を参照してください。

関連トピック

[「Overview of Loosely Coupled Integration」](#)

[「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」](#)

[「Overview of Loosely Coupled Integration」](#)

[「Using SSO with the Cisco WebEx and Cisco WebEx Meeting applications」](#)

Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの提供

Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを Cisco Jabber for Windows に提供するには、次のいずれかの方法を選択します。

- Cisco Jabber for Windows ユーザが、[オプション (Options)] ウィンドウで Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを個別に指定する。
- Cisco Unified Presence で Web 会議サービスのクレデンシャル ソースを指定する。

Cisco Jabber for Windows での Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルの指定

Cisco Jabber for Windows ユーザは、[オプション (Options)] ウィンドウの [ミーティング (Meetings)] タブで、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを指定します。 [オプション (Options)] ウィンドウを開くには、Cisco Jabber for Windows で [ファイル (File)] > [オプション (Options)] を選択します。

Cisco Unified Presence でのクレデンシャル ソースの指定

Cisco Unified Presence でクレデンシャルソースを指定するには、このタスクの手順を実行します。



制約事項

Cisco WebEx Meeting Center による認証に ID プロバイダーを使用する場合は、Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定できません。



重要

Cisco Unified Presence で指定するクレデンシャルと Cisco WebEx Meeting Center で指定するクレデンシャルを同期するメカニズムはありません。

Cisco Unified Presence でクレデンシャル ソースを指定する場合、それらのクレデンシャルとユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを一致させる必要があります。

たとえば、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルがユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致することを指定します。 それによって、ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが変更されます。 この変更が反映されるように、ユーザの Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルを更新する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [設定 (Settings)] を選択します。
Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定 (Settings)] となります。
- ステップ 3** [Cisco Jabber の設定 (Cisco Jabber Settings)] のセクションで、[Web 会議サービスのクレデンシャルソース (Credentials source for web conferencing service)] ドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。
- 未設定 (Not set)
- ユーザには、Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致するクレデンシャルソースがありません。
- CUP
- ユーザの Cisco Unified Presence クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。
- ボイスメール (Voicemail)
- ユーザの Cisco Unity Connection クレデンシャルが Cisco WebEx Meeting Center クレデンシャルに一致します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-

Cisco Unified Presence での Cisco WebEx Meeting Center の設定

Cisco Jabber for Windows は、Cisco Unified Presence の会議プロファイルから Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を取得します。Cisco WebEx Meeting Center サーバを追加し、そのサーバを会議プロファイルに追加してから、ユーザをプロファイルに追加する必要があります。

会議サーバの追加

Cisco Unified Presence で会議を設定するには、まず、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を追加します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [会議サーバ (Conferencing Server)] を選択します。
Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議サーバ (Conferencing Server)] となります。
- ステップ 3** [新規追加 (Add New)] を選択します。
[会議サーバの設定 (Conferencing Server Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 4** 次のフィールドで、Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を指定します。

名前 (Name)

設定の名前を入力します。

説明 (Description)

任意の説明を入力します。

ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)

Cisco WebEx Meeting Center サーバのホスト名を指定します。

(注) IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

ポート (Port)

Cisco WebEx Meeting Center サーバのポート番号を指定します。

プロトコル (Protocol)

ドロップダウンリストから [HTTPS] を選択します。

サーバタイプ (Server Type)

ドロップダウンリストから [WebEx] を選択します。

サイト ID (Site ID)

Cisco WebEx Meeting Center のプライマリ サイト ID を指定します。

(注) [サイト ID (Site ID)] フィールドは任意です。Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合するためにサイト ID は必要ありません。

パートナー ID (Partner ID)

Cisco WebEx Meeting Center の適切なパートナー ID を指定します。

(注) [パートナー ID (Partner ID)] フィールドは任意です。Cisco Jabber for Windows では、Cisco WebEx Meeting Center と統合するためにパートナー ID は必要ありません。

ステップ 5 [保存 (Save)] を選択します。

会議プロファイルの作成

会議サーバの詳細を指定した後は、会議プロファイルを作成します。それにより、Cisco Jabber for Windows はプロファイルから Cisco WebEx Meeting Center サーバの詳細を取得し、会議機能にアクセスできます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Presence の管理 (Cisco Unified Presence Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [アプリケーション (Application)] > [Cisco Jabber] > [会議プロファイル (Conferencing Profile)] を選択します。

Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション (Application)] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [会議プロファイル (Conferencing Profile)] となります。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[会議プロファイルの設定 (Conferencing Profile Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 次のフィールドで、プロファイルの詳細を指定します。

名前 (Name)

設定の名前を入力します。

説明 (Description)

任意の説明を入力します。

プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)

ドロップダウンリストからプライマリ Cisco WebEx Meeting Center サーバを選択します。

(注) Cisco Jabber for Windows では、[プライマリ会議サーバ (Primary Conferencing Server)] ドロップダウンリストから選択されたサーバのみが使用されます。[バックアップ会議サーバ (Backup Conferencing Server)] ドロップダウンリストからサーバを選択する必要はありません。

サーバ証明書の検証 (Server Certificate Verification)

ドロップダウン リストから、次のいずれかを選択します。

- 任意の証明書 (Any Certificate)
- 自己署名またはキーストア (Self Signed or Keystore)
- キーストアのみ (Keystore Only)

- ステップ 5** [この会議プロファイルをシステムのデフォルトにする (Make this the default Conferencing Profile for the system)] チェックボックスをオンにして、このプロファイルをシステム デフォルトとして設定します。
- ステップ 6** 次の手順に従って、会議プロファイルにユーザを追加します。
- a) [プロファイル内のユーザ (Users in Profile)] セクションで、[プロファイルにユーザを追加 (Add Users to Profile)] を選択します。
[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが開きます。
 - b) [検索 (Find)] を選択してユーザのリストを取得します。
 - c) 対象のユーザをリストから選択します。
 - d) [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。
選択したユーザがプロファイルに追加され、[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ダイアログボックスが閉じられます。
- ステップ 7** [保存 (Save)] を選択します。
-

Microsoft Office との統合の設定

Cisco Jabber for Windows を Microsoft Office と統合すると、ユーザは、Microsoft Office スイートのアプリケーションで他のユーザとアベイラビリティステータスを共有できます。また、Microsoft Office との統合により、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Office で他のユーザと簡単にチャットを始め、音声およびビデオ コールを行うことができます。

Microsoft Outlook でのアベイラビリティステータスの有効化

Cisco Jabber for Windows と Microsoft Outlook の統合を有効にするには、Microsoft Active Directory で proxyAddresses 属性の値として SIP:user@cupdomain を指定します。それにより、Cisco Jabber for Windows ユーザは、Microsoft Outlook でアベイラビリティを共有できます。

次の操作で、proxyAddresses 属性を変更できます。

Active Directory ユーザとコンピュータなどの Active Directory 管理ツールを使用する

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールは、Microsoft Windows Server 2008 以降での属性の編集を可能にします。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用する

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Cisco.com の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージで入手できます。このユーティリティは、各ユーザに proxyAddresses 属性と値 SIP:user@cupdomain が追加されるようにディレクトリを変更する、LDIF ファイルを生成します。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの属性の編集機能をサポートしていない、Microsoft Windows Server 2003 などのサーバでは、ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用してください。ADSIEditなどのツールを使用して、ADSchemaWizard.exe ユーティリティで適用する変更を検証できます。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティには、Microsoft .NET Framework バージョン 3.5 以降が必要です。

Microsoft Windows PowerShell を使用してスクリプトを作成する

Microsoft Outlook でプレゼンスを有効にするためのスクリプトの作成については、適切な Microsoft のマニュアルを参照してください。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用し、個々のユーザに対して Microsoft Outlook でのプレゼンスを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを起動します。
Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを実行するには、管理者権限が必要です。
 - ステップ 2 メニューバーから [表示 (View)] を選択し、ドロップダウンリストから [拡張機能 (Advanced Features)] オプションを選択します。
 - ステップ 3 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールで適切なユーザに移動します。
 - ステップ 4 そのユーザをダブルクリックして、[プロパティ (Properties)] ダイアログボックスを開きます。
 - ステップ 5 [属性エディタ (Attribute Editor)] タブを選択します。
 - ステップ 6 [属性 (Attributes)] リストボックスで proxyAddresses アドレスを見つけて、選択します。
 - ステップ 7 [編集 (Edit)] を選択して [複数の値を持つ文字列エディタ (Multi-valued String Editor)] ダイアログボックスを開きます。
 - ステップ 8 [追加する値 (Value to add)] テキストボックスで、値 SIP:user@cupdomain を指定します。
たとえば、SIP:msmith@cisco.com となります。

ここで、user@cupdomain 値はユーザのインスタントメッセージアドレスです。cupdomain 値は Cisco Unified Presence のドメインです。
